



平成27年7月20日
飯田 恭 張
平飯 賀 出 所

第 95 号
行 務 局
第 95 号

二子玉川 未来への展望

五子昌 山田修一

二子玉川への文化流入の歴史は昭和30年代初期の公団住宅・社宅の建設によるホワイトカラーの爆発的増加、玉川高島屋出店に始まり、おしゃれな街情報発信地としての現在に続いた。原動力はいずれも新しく二子玉川に越してきた人と企業、それに街の包容力だった。ライズに代表される再開発では当初から町会が参画していた事が新しい。二子玉川の未来を考えた場合、新しく住民となった人達からアイディアをもらい、街づくりにその新しいパワーを反映出来るシステム構築こそが重要だ。訪れる人々にも魅力的で、新住民にも自分達が作った街と誇れるよう、独自文化を育成し、ハード・ソフト両面のバランスのとれた未来都市モデル構築こそが最重要であると実感している。

(二子玉川郷土史会)



区民センターは出会の場

藤本甲由 入江 真

玉川台区民センター運営協議会では、区民の出会いとコミュニケーションの向上を目的に、様々な活動を行っています。日帰りバス旅行やウォーキングをはじめ、コミュニケーションまつりやバザーなどのイベント。

親子を対象にした、お正月あそびあそびまつり、作ってあそぼう会。その他、歴史講座や文学講座などの教養系。映画会やダンスなどの娯楽系など、誰もが自由に参加できる場を、今後も提供していきたいと思っています。

(玉川台区民センター運営協議会 事業委員長)

皆で支えるまち



第六天会

高橋 昌 船生 茂

昭和35年6月15日に用賀敬老会館が完成し、この地に第六天様が祀られていたことから「第六天会老人クラブ」が誕生しました。今年で50年になります。当クラブが用賀地区会館を利用できることは大変な恩恵であります。他のクラブでは会場確保に苦勞されていると聞きます。

しかし、近年当クラブでは会員が減少傾向にあります。広報やチラシで募集しておりますがうまくいきません。この歴史ある当会の維持発展のため、会員の皆様と共に楽しく日々を過ごせることを願っています。

(第六天会会長)



まちの安全

市消防署長 下田哲也

玉川消防署用賀出張所では、地域一人ひとりの防災行動力の向上を図るために、地元消防団と連携し、町会・自治会などを中心にスタンバイアをはじめ、消火器やAEDなどを活用しての訓練指導を行っています。これらの訓練を通じて、防災意識の高揚や、まちの安心・安全に努めております。

今後とも所員一同、地域の皆様に、より一層信頼される消防部隊を目指し、精進してまいりますので、消防行政運営に対するご理解ご協力を、引き続きよろしくお願い申し上げます。

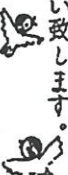
どうぞよろしく

馬場公苑前駐所 佐野栄二

四月一日付、渋谷署から玉川署馬場公苑前駐在所勤務を命ぜられました佐野栄二と申します。何かの机缘で増任した上用賀地区での生活も、早、四ヶ月が経ちました。

閑静な住宅街、充実した教育機関、そして緑溢れる街並み。都内ではとても貴重な地域で勤務できる喜びを、毎日肌で感じております。

これから暑い季節となりますが、皆様体調に充分留意されるとともに、事件、事故に遭わぬよう万端ごしください。地域住民の一員として、どうか気軽にお声掛けをお願いします。



木洩れ日

飯田恭次

梅雨明けが、少し延びた様ですが、いよいよ子ども達にとっては楽しい夏休み今年も山へ海へ、そして、故郷へと夏の思い出作りが始まります。

今年は戦後七十周年、あの太平洋戦争当時を体験している人は食糧難、物不足、ラジオから流れた「リンゴの唄」や「青い山脈」等々を想い起こす季節です。

戦時中、大日本帝国、神国日本が、武運長久、米英撃滅、欲しがりません勝つまではと口々に唱えた日々があった事を、私たちは正確に次の世代へ語り継ぐ必要があります。

憲法改正論議は国境を越えて国々が平和な国際社会を築いて行くと云う長期的視点での取り組みが必要で

二子玉川に大型商業施設が完成しました。若者達に人気の「ニコタマ」不思議な事に二子玉川と云う町名はありません。多摩川を境に、二子新地駅のある町は二子、二子玉川駅のある町が玉川、行政区分は神奈川県と東京都に分かれ、中を取りもつ二子橋と田園都市線、大井町線の電車です。

八月下旬、今年も、たまたがわ「花火大会」が盛大に開催されます。多摩川の川面に映る大輪の花、二子と玉川の光の競演を皆で楽しみましょう。



郷土紹介

大山道のあしあと

平田良孝

江戸時代も中期に入り、大山道を通って相模より江戸へ向う人も次第に増えて安永六年（一七七七）瀬田村の治太夫堀際に道標を煮ねた庚申塔が建ちました。その石標には南、大山道西、赤坂道、東、目黒道と云う字が刻まれます。

そして天明年代、小田原地方に大地震や洪水、天明三年（一七八三）、信州の浅間山が大噴火、全国的な冷夏も加わり、所謂、天明の大飢饉が始まります。

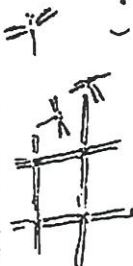
天明六年（一七八六）の秋、彦根藩世田谷領では再び代官の年貢未進事件が起ります。大場、飯田両代官

共、夫々二代目の時、飯田代官は財産没取の上、領外追放。大場代官は病身の為もあって隠居と云う処分を受けました。飯田代官の屋敷

田畑は跡先に付され、その大半は村内の商家、鈴木六左衛門が落れました。

又、その代官職は領内宇奈根村の名主、荒居市郎兵衛が引き継ぎました。

この事件以後、用賀村は大山道沿いの商業地として新たな歩みが始まり、坂下の追分付近に細屋、酒店、番酒屋、油屋等が軒を並べ文政十年（一八二七）建立の庚申塔、道標には右江戸道、左世田谷四谷道と標されました。（この現物は世田谷区郷土資料館にあります。）



やぐらの会

用賀小学校校長 橋本雅史

用賀小学校では毎年八月の終わりに二日間夏祭りが行われます。用賀小学校の子どもたちはこのお祭りをとても楽しみにしています。この運営をされているのがやぐらの会です。

やぐらの会が発足され二十年以上が経ちます。学校周辺に神社や寺院がなく、地元にお祭りがない地域の子どもたちに、祭りの楽しさを知ってもらいたい、地域の皆様のそんな思いからやぐらの会の発足に至ったという話を伺ったことがあります。



に感謝の念を感じます。この夏祭りににはたくさんの子どもたちが遊びに来ます。華やかな浴衣姿もたくさん見かけます。家族で来る子もたくさんいます。大人もいっしょに楽しんでいきます。卒業生も懐かしむように大勢集まります。お店もたくさん出ます。PTA、おやじの会、地域の様々な団体の皆様。用賀小学校の教員もお手伝いしています。

この二日間時は昭和の時代にタイムスリップしたかのように、たくさんの方が集い、にぎやかに夏のひとときを楽しみます。今年もやぐらの会の夏祭りが真近な季節になりました。

共、夫々二代目の時、飯田代官は財産没取の上、領外追放。大場代官は病身の為もあって隠居と云う処分を受けました。飯田代官の屋敷田畑は跡先に付され、その大半は村内の商家、鈴木六左衛門が落れました。又、その代官職は領内宇奈根村の名主、荒居市郎兵衛が引き継ぎました。この事件以後、用賀村は大山道沿いの商業地として新たな歩みが始まり、坂下の追分付近に細屋、酒店、番酒屋、油屋等が軒を並べ文政十年（一八二七）建立の庚申塔、道標には右江戸道、左世田谷四谷道と標されました。（この現物は世田谷区郷土資料館にあります。）

変わりゆく二子玉川

五子玉川 玉川 裕

玉川の町は昭和四十四年に一大変貌をとげた。玉川高島屋が開店し、今までの田畑がマンションに変わり、のどかな田園風景がショッピングの街として、近隣の商店を呑み込んでいき、サンダル履きで買物物がでる雰囲気に変化してきてた。

東地区再開発により、高層マンションが建ち並び、ライズがオープンして、シネマ、ホテル、フィットネスクラブと近代都市に変貌を遂げた。住民が増す度に、小學生が増え、一時は、のんびりした小学校も、今では元気があふれている。



な子供の声が増え、車道の数も増え、交通事故の心配が多い。玉川三、四丁目の道路が「ゾーン30」規制に指定されたが、守らない車がまだ多い。過去五〇年の玉川の変わり様は、生活を変え意識も大きく変えてきた。これからの五〇年は、私は見ることは出来ないが、玉川に住みたい、住んで良かったと思われる街になって欲しいと願うばかりです。

スポーツ

今年の夏の行事

ふるさと区民まつり

馬事公苑

8月1日(土) 2日(日)

納涼の夕べ

用賀いらか道

8月20日(木) 午後4時〜8時

どじょうつかみ

受付 3時30分から

たまがわ花火大会

区立二子玉川緑地運動場

8月22日(土)

国勢調査を実施します。

9月10日から、調査委員証しを携帯した調査員が、皆様の自宅へ調査書類の配布に伺います。

世田谷区国勢調査実施本部

(世田谷区政策研究 調査課)

国勢調査 2015

国勢調査 2015

国勢調査 2015

国勢調査 2015

国勢調査 2015

国勢調査 2015



雨の日が続く、涼しい日も多かった梅雨。今後の影響が気になります。そして八月、暑い夏と聞くと思いつくのは、終戦の日の風景です。もちろん実体験ではなく、テレビの映像です。戦争を知らない世代ばかりになりつつある今日この頃、平和な日本を守る為に過去から学ぶ必要があると思います。

さて、今回のメインテーマは、「皆で支えるまち」です。各方面で活躍されている方々から、寄稿していただきました。何気なく暮らす日々も、誰かの支えがあってこそ。感謝の気持ちが大です。（鈴木敏）

